

2021年度 独創的研究助成費 実績報告書

2022年3月31日

報告者	学科名	看護学科	職名	助教	氏名	犬飼智子
研究課題	ゴールド・メソッドを用いたシミュレーション教育プログラムの開発					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	犬飼 智子	看護学科・助教	成人看護学	総括	
	分担者	名越 恵美	看護学科・准教授	成人看護学		
研究実績の概要	<p>3年次後期に開講している「看護アセスメント学」では、臨地実習で経験しうる患者の事例を基に、実際の病室、患者の状態を再現した環境でシミュレーションを行い、看護実践を経験する授業を行っている。開講時期は臨地実習開始前に行っており、実習前に看護実践能力を高めるための重要な位置づけである。</p> <p>授業内のシミュレーションにおいて、ゴールド・メソッドを活用することにより、看護実践の一連のプロセスで患者の病状を認識して変化を予測し看護計画を立てたり、観察したことから状況を判断したり、その状況で必要な行動を選択し実行しながら、「できる」看護師の看護実践能力を経験する。さらにその後の臨地実習での実践を通して、看護実践能力の獲得を目指していく。</p> <p>【研究目的】</p> <p>本研究では、臨地実習終了後の学生を対象とし、臨地実習での看護実践において患者の変化の気づき、看護計画の適応等の状況や学生自身の観察力、実践力について評価を行い、ゴールド・メソッドによる看護実践能力への影響を明らかにする。</p> <p>【研究方法】</p> <p>1. 対象者 看護アセスメント学を受講し、臨地実習（成人看護学実習Ⅰ）を終えた学生。 看護アセスメント学を受講し、ゴールド・メソッドに関する講義および3回のシミュレーション演習をすべて受講した学生かつシミュレーション演習で看護師役を経験していることとする。</p> <p>2. データ収集 臨地実習終了後に、無記名自記式質問紙による調査を実施、記入後に回収する。 調査項目：基本属性は年齢、学年とする。評価項目として高次の認知能力（実践における思考過程・判断過程の原則“能力獲得”）9項目、情意領域（実感や意識の高まり）6項目（森本ら、2017）とする。ゴールド・メソッドの臨地実習での活用については、患者安全 TeamSim・ステップ1に関する項目（池上、2018）を参考に、「患者情報から病状を正しく認識し変化を予測できる」、「訪室したら『変化がない』、『変化の懸念がある』、『変化がある』を判断できる」、「『変化がない』なら患者安全信号機を使ってプラン緑を選択できる」「『変化の懸念がある』『変化がある』なら上級者に報告できる」について4段階の自己評価を行う。自由記載欄も設ける。</p> <p>研究の同意は、質問紙の同意欄へのチェック及び投函を持って研究に同意したとみなす。記入時間は5～10分程度である。</p>					

※ 次ページに続く

3. 分析方法

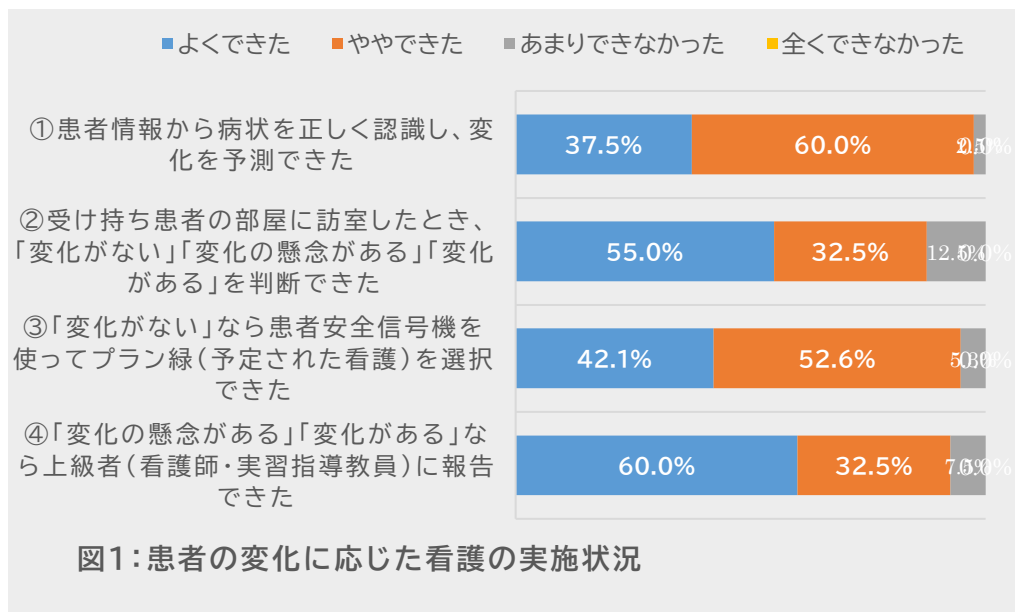
4段階評価を実施した項目は、記述統計を行い、自由記載欄には、質的分析を行った。

【結果】（図1）

40名から回答を得た（回収率88.8%）。看護アセスメント学の教授内容は、97.5%の学生が臨地実習で役に立ったと回答した。看護実践では、患者の変化の予測や、ケアの選択、上級者（看護師・実習指導教員）への報告が「よくできた」「ややできた」と回答した割合は87～97%と高値であった。

本教育プログラムは、臨地実習の実践に向けた事前学習として、学生は効果的であると評価していた。

研究実績 の概要



成果資料目録